

クビアカハナカミキリの幼生期の生態に関する一知見

武 田 雅 志

〒152 東京都目黒区緑が丘 2-10-3

関 章 弘

〒154 東京都世田谷区三宿 1-3-10

Ecological Notes on the Immature Stage of *Gaurotes (Carilia) atripennis* MATSUSHITA (Coleoptera, Cerambycidae)

Masashi TAKEDA

Midorigaoka 2-10-3, Meguro-ku, Tokyo, 152 Japan

and

Akihiro SEKI

Mishuku 1-3-10, Setagaya-ku, Tokyo, 154 Japan

Abstract A pupa and a larva of *Gaurotes (Carilia) atripennis* MATSUSHITA (Cerambycidae, Lepturinae) were accidentally found in a breeding case, in which dead branches of *Pinus parviflora* SIEB. et ZUCC. collected in Minami-Aizu, Fukushima Prefecture, northern Honshu, were placed. The former was found in the lump of chips, while the latter near the lump.

These happenings suggest that the larvae of this species may pupate in the soil, as was previously reported on other species of the same genus.

クビアカハナカミキリ属 (*Gaurotes*) の幼生期の生態に関しては、これまで CHEREPANOV (1979) と ŠVÁCHA & DANILEVSKY (1988) がアジア、ヨーロッパに分布する数種について報告している。それらによると、幼虫は枯れ木内に穿孔し、孵化から2年目の秋に材から出て地中へ潜行、終齢幼虫は地中で越冬したのち、翌春そのまま地中で蛹化、羽化脱出するとされている。また、日本国内でも、河路 (1984) がカラカネハナカミキリ *Gaurotes (Paragaurotes) doris* BATES について、蛹の形態を記載するとともに、幼生期の生態について触れている。河路はカツラ、オニグルミ等の枯れ木中にいた本種の幼虫を採集、室内で飼育した際、羽化脱出する前年の秋には幼虫が地中で生活し、春にそのまま蛹化、その後羽化したことを報告している。

筆者の一人、関は、1990年6月24日に、福島県南会津郡館岩村の鱒沢付近の土場に放置してあったマツ属のヒメコマツ *Pinus parviflora* SIEB. et ZUCC. の枯れ木 (直径約 15 cm, 長さ約 35 cm)

2本を持ち帰り、飼育ケースに入れて保管した。この材にはカラフトヒゲナガカミキリ *Monochamus saltuarius* (GEBLER) (翌春に羽化脱出) が穿孔しており、その幼虫が粗い繊維質の木屑を多く排出したので、飼育ケースの隅に厚さ 3 cm 程度かき集めておいた。1991年4月頃に飼育ケースを掃除していたところ、その木屑内に造られた蛹室中から腹面を上にした蛹を、また付近で幼虫をそれぞれ1個体発見した。蛹室について詳細な観察はできなかったが、直径 2 cm 程度のものであった。その蛹を松本裕一氏がプラスチックケース中に保管しておいたところ、4月中に正常に羽化し、これがクビアカハナカミキリ *Gaurotes* (*Carilia*) *atripennis* MATSUSHITA であることを確認した。この結果から、飼育した個体は材を採集した時点では材中にいたが、翌4月までのいずれかの時期に外部へ出てカラフトヒゲナガカミキリが排出した木屑中に潜入し、そこで蛹化したものと考えられる。したがって本種も、これまでに報告されているほかの *Gaurotes* 属のものと、とくに蛹化に際して同様の生態である可能性が示唆された。

日本からは *Gaurotes* 属は3種が知られるが、その幼生期の生態に関しては、これで2種について若干の知見が得られたことになる。そのいずれもが自然状態ではなく、飼育下におけるものであるが、その飼育過程でみられた生態は、いずれも CHEREPANOV あるいは ŠVÁCHA & DANILEVSKY の報告と明らかに関連して考えられるものである。寄主植物や亜属の違いはともかく、日本国内においても *Gaurotes* 属の幼生期の生態はおおむね同様であると考えられる。ただ、残念ながら、日本に分布するもう1種の *Gaurotes*、オトメクビアカハナカミキリ *Gaurotes* (*Carilia*) *otome* OHBAYASHI の幼生期の生態に関する報告は見当たらない。

なお、寄主植物について考察を加えれば、カラカネハナカミキリでは河路の報告のほかにも小島・中村 (1986)、草間・高桑 (1984) などに広葉樹、針葉樹各種が報告されており、クビアカハナカミキリでは今回初めてヒメコマツが報告されることとなった。オトメクビアカハナカミキリについては寄主植物に関する報告は見当たらないが、ほかの *Carilia* 亜属の種が針葉樹を好むことから、この種も針葉樹を好むものと推測される。

文末ながら、本報告に協力して下さった高桑正敏、松本裕一の両氏に深謝する。

引用文献

- CHERPANOV, A. I., 1979. Usachi severnoi Azii [Cerambycidae of Northern Asia] I. (Prioninae, Disteniinae, Lepturinae, Aseminae.). XVI+642 pp. Nauka, Novosibirsk. (English ed.)
- 河路掛吾, 1984. カラカネハナカミキリの幼生期における若干の知見. 北九州の昆虫, 31: 131-132.
- 小島圭三・中村慎吾, 1986. 日本産カミキリムシ食樹総目録. VII+III+336 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.
- 草間慶一・高桑正敏, 1984. ハナカミキリ亜科 (part). 日本鞘翅目学会編, 日本産カミキリ大図鑑, 153-172. 講談社, 東京.
- ŠVÁCHA, P., & M. L. DANILEVSKY, 1989. Cerambycid larvae of Europe and Soviet Union (Col., Cerambycoidea). Part III. *Acta Univ. Carol.*, (Biol.), 32 [for 1988]: 1-205.